

会 議 議 事 録

1 会議名	第4回長岡市立地適正化計画策定委員会
2 開催日時	令和4年6月24日（金曜日）午後1時30分～午後3時30分
3 開催場所	まちなかキャンパス長岡3階 301会議室
4 出席者名	<p>■出席委員（6名）</p> <p>佐野委員長、樋口委員、松田委員、福本委員、宮下委員、小村委員</p> <p>■オブザーバー（4名）</p> <p>国土交通省北陸地方整備局建政部 音瀬都市・住宅整備課長、新潟県土木部都市局 安藤都市政策課長、北陸地方整備局河川部 高橋河川計画課長、北陸地方整備局信濃川河川事務所 山邊副所長</p> <p>■事務局（8名）</p> <p>若月都市整備部長、高頭都市政策課長、辻都市防災まちづくり担当課長、近藤交通政策担当課長、金子危機対策担当課長、平澤都市政策課長補佐、小林都市防災まちづくり担当課長補佐、小島都市政策担当係長</p>
5 欠席者名	松川委員
6 議題	<p>1 中間評価（追加報告）</p> <p>2 防災まちづくりの方向性（案）</p> <p>3 計画書修正（案）</p>
7 審議結果の概要	<p>・上記議題に関する質疑応答を行い、防災指針本編の記載に当たっての防災まちづくりの検討内容及び計画書修正（案）について、各委員の意見を集約した。</p> <p>・次回以降の委員会の議事に反映する。</p>

8 審議の内容	
都市政策課長補佐	まず、都市整備部長よりご挨拶を申し上げます。
都市整備部長	(都市整備部長あいさつ)
都市政策課長補佐	<p>議事に入る前に、今年度から参加していただく方をご紹介します。長岡市商工会議所女性会会長の宮下様。</p> <p>次に、オブザーバーとして、新潟県土木部都市局都市政策課長の安藤様。</p> <p>国土交通省北陸地方整備局河川部河川計画課長の高橋様。</p> <p>国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所副所長の山邊様。</p> <p>続いて、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>本日は、議事録の作成のため、録画及び録音をしているので、ご了承ください。</p> <p>それでは、早速、議事に入らせていただく。</p> <p>議事の進行は委員長にお願いしたい。</p>
委員長	<p>それでは、お手元の資料に従い、議事を進行させていただきます。</p> <p>本日の議事は3つである。では、議事(1)中間評価の経過報告について、事務局に説明をお願いします。</p>
事務局	(議事(1)資料説明)
委員長	<p>ただいまの説明に対して、ご質問等ありましたらご発言いただきたい。</p> <p>バスに対する満足度が、高齢者のみで比較しても少し増えたという話だが、高齢者だけのサンプル数はどれくらいか。</p>
交通政策担当課長	高齢者のサンプル数は、昨年度実施の公共交通のアンケートでは169人である。

委員長	<p>1人が約0.7で差が1%くらいとなるため、これはあまり有意な差とは思わない方がよい。バスの運行間隔が短くなったなどの事実があれば満足度が高くなったと評価しても良いが、変わっていないか、もしくは悪くなっていると思う。母集団が変わったという影響は大きいので、良くなったと評価しない方がよい。</p>
交通政策担当課長	<p>先生のおっしゃるとおり。実際、平成28年度から令和3年度の間にはバスの運行状況は、特に変わらないと考えている。これについては確認したい。</p>
A委員	<p>高校生の満足度が高くなったことは、どういう状況か分からないが良いことだと思う。</p> <p>他都市はどんどん路線バスの頻度が落ちていて、高校生が通えないような事態が起きているので、他都市と比べると満足しているのかなと少し思った。</p> <p>まちなか居住区域内の小校区と書いてあるが、まちなか居住区域というのは全部で確か11か所あったように思うが、小校区にするといくつになるのか。先ほど、高校生と言ったが、長岡のまちにはかなり高校がある一方、その他のところにはあまり高校が無いような気がする。どのようにしてこのアンケートを抽出したのか教えてもらいたい。</p>
都市政策課主査	<p>平成28年度アンケートに、お住まいについて回答頂くところがあり、その際は住所を特定したのではなく、小校区を記載していただいて、対象者を絞り込んでいる。令和3年度のアンケートについては、郵便番号を記載するように変更し、より詳細な絞り込みを行っている。ご質問にあった小校区については確認できていないのでまた改めて確認する。</p>
A委員	<p>まちなか居住区域というのは、一括りで考えて良いのか、区域ごとに考えたほうが良いのか、全体として見にくくなっている。</p> <p>施策については11か所ごとに分解して考えないと対策が打ちにくいと思う。ここに書く必要は無いかもしれないが、今の質問に対して事務局の皆さんが即答できる状況であってほしい。</p>

B 委員	<p>A先生の質問と重なるが、この評価については先生方の指摘にあるように、あまり過大に評価しない方が良い。どのデータを諸元として、どのような操作をしたのか分かりにくい。元のデータ及び操作した内容、抽出した数的な根拠をしっかりと書いて頂きたい。</p> <p>アンケート調査の属性情報も高校生と高齢者だけを見る意味が分かりにくい。地域ごとの満足度の差等の話なら、まちなか居住区域内においても地域差があるかどうかの視点で有意義に見ることができる。良し悪しではなく、何のためにこのような評価をしているかをある程度付け加えたほうが読みやすい資料になる。</p>
都市政策課長	<p>アンケート結果及び補正方法については、言葉の説明では分かりにくいいため、まとめたものを皆様に送らせていただく形でよろしいか。高校生と高齢者に限定しているのは、主にバスを使う年齢層だからである。同じまちなか居住区域といえども地域でそれぞれ満足度等も違うのはご指摘のとおりである。</p>
C 委員	<p>今までの質問に加えて精査したものを提出していただけるのであれば、満足度の内容が分かりにくいので、どのような指標を満足度として評価しているのか明確にしてほしい。</p>
委員長	<p>それでは、議事（2）防災まちづくりの方向性（案）について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>（議事（2）資料説明）</p>
委員長	<p>ただいまの説明に対して、ご質問等ありましたらご発言いただきたい。</p> <p>P73に、都市的土地利用継続の判断基準とあるが、一番最初の2割未満であることの2割の根拠とは何か。</p>
都市防災まちづくり担当課長	<p>2割というものに明確な基準等があるというわけではなく、検討自体が長岡市独自のものになっている。本市のハザードの指定状況に伴い、2割という基準を独自に設けた。基準値に対する考え方は他にはあると思うが、安全な都市機能を継続する上では基準を設定する必要があると考えて定めている。</p> <p>今回レベル3になっている対象地域を個別に確認していくと、例</p>

	<p>例えば、地滑り・急傾斜地といった土砂災害・雪害については、複数の箇所対策工が実施されていた。また、水害（外水）においても、信濃川の整備効果により、高頻度において軽減していることを確認しており、レベル3の所でもある程度の安全は確保されていると思います、現状継続できる2割という設定をしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>よく分からない。例えば、あるエリアがあり、（レベル3の割合が）約2割だとする。左半分は、（レベル）3がなく、右半分は（レベル）2や3が2割ぐらいだとする。右半分だけみれば4割増えることになる。このような指標である根拠は何か。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>P48のリスク分析・評価結果にある地域ごとの特性の整理において、具体的なまちづくり単位でのエリアを指定している。例えば、長岡、与板、栃尾等のエリアを指定した中で、P48の下の円グラフを各地域別に見ると影響レベル3が最も出たのは、実際の集計結果から栃尾地域の14%だった。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長補佐</p>	<p>委員長がおっしゃるのは、仮に100mメッシュが5つ繋がるエリアでのレベル3の多寡を見て、個々に整理すれば結果が異なるのではということだと思うが、事務局が提案させていただいているのは、地域ごとのかたまりとして評価したいということである。</p>
<p>委員長</p>	<p>例えば、地域で2割以下ならば、残りの8割でカバーができるという話となる。その2割のエリアというのは異なる意味があると思うが、その辺の根拠がよく分からず、恣意的に見える。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長補佐</p>	<p>第3回策定委員会では、各地域のハザードの面積評価をお示ししたが、地域ごとにどのハザードが何%の面積を占めているかという視点で見ると、実際にその割合が4割5割となるとかなりハザードが地域を侵食しているイメージである。その中で、20%というところで、色々見ていくと、ハザードの指定状況として許容できる限界というか、恣意的に見えるかもしれないが、ハザードに対応できる限界として捉えることができた。このハザードの面積割合も参考にして設定している。</p>

D委員	<p>私も同じところを聞こうと思っていたが、この判断基準の現れるスライドが P73ということも違和感に関係しているように思う。判断基準は本来分析の前にあるべきで、2割と事前に決めてから分析をし、最大でも16%だったというロジックであるべき。今この順番で聞くと、やはり後で決めた、根拠がないように見えると思われても仕方がないと思う。</p> <p>あとは P48の結果も、複数の地域間を比較する意味では非常に役立つ。各地域の傾向や優先事項を把握するには非常に有用であると思うが、この特定の指標をもって、都市的な土地利用の継続を促さないかというところに適用するのは、やや踏み込みすぎの感がある。条件2と条件3がついていることで、結局全部満たされるという結論になるのであれば、無理にこの判断基準をここで示さなくても良いのではないかと思う。</p>
都市防災まちづくり担当課長	<p>都市的土地利用を継続するのに含めてはいけないのは法的には、その前に説明したレッドゾーンである。そもそも事務局としてはレッドゾーンを除いた上で、イエローゾーンの中で想定されるリスクを検討して、危険なところがどこなのかを考えている。全国的に条件として示されることからさらに踏み込んで検討した結果となっている。そうして安全性を見ていき、防災指針の指標を設定するために独自の考え方を整理し、何かしらの一定の方向性を示したいということもあり、今回のような方法を考えた。</p> <p>2割という設定にどのような基準があるのかというご意見をいただき、正直3割でも良いのかなと思う。よく3割程度の設定があるので、それでも良かったが、絞り込んで2割、もしくは1割なのかを考えたうえで2割で設定している。これについては整理の仕方として、ご指摘の通りに示すのか考えさせていただきたい。</p>
都市防災まちづくり担当課長補佐	<p>D先生のご指摘の中での、もっと前に条件を示すべきなのではないかとの点については、P61に都市的土地利用を継続するエリアを決定する際の視点として、①と②を挙げている。この「リスク値3の割合が2割未満であること」というのは、視点①に該当するもので、既にここで決めている。</p>
B委員	<p>お話を聞いて先ほどのバスの利用に関してもそうだが、そもそも何のためにやっているのかということ整理しながら議論を</p>

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p> 諮っていただきたい。今の先生方の指摘に対する回答を聞いていると、指標や基準を設けたいということが目的化しているように聞こえてしまう。そういう意味ではご用意いただいた考え方のもと、全地域を相対的に評価していただいて、その結果を読み上げていただいて有用な議論になるのか。 </p> <p> また、ここから防災指針を打ち出したとして、それがどれだけもってもらいたいのかというところに疑問をもってしまう。具体的には、先ほど恣意的という言葉もあったが、都合の良い点をピックアップしてまとめ、文章に書いているようなところがある。しかし、それが本当に都合が良いかを判断するためには、やっていただいたリスク分析のモデルと、実際に計算するプロセスを追わなければいけないので凄く大変だと思いながら聞いていた。 </p> <p> そもそも、今回、洪水ハザードマップが想定最大規模に変わったことから、居住誘導をすべき対象地区に危ないエリアがあるということをしっかり踏まえるために防災指針をつくる話だったので、その辺りの、スライドP9やP10、P13の前提の部分の可能性、考え方をきちんと議論した方が良いと思う。やってみたということは今聞いて、これを市民の方にどうやって説明するかというときに、そもそも指標を設定する基準を出したいことが目的化しているように聞こえてしまうので、こちらの方を議論していく方向に変えられないのかというのが意見としてある。 </p> <p> 想定最大規模のハザードマップが示されたという点について、ハザードマップは避難に関するものである。このたびの検討では当然、想定最大規模も評価しているが、まちづくりとしては計画規模ということで設定した。なかなか他の防災指針でも面的評価がなく、市が地域にハザードによるリスクをなんとか分かりやすく説明したいという思いがある中で、提案として示している。やり方を市民に説明していく中で、指標を出すことが目的であるように受けとられてしまったのは申し訳ないと思う。事務局として、やはり防災指針を示すこととは、安全・安心のための取組みを示し、どのようにまちづくりを進めていくか、そういったことを立地適正化計画に示すことであると思う。また、市民に分かりやすく説明するためにも、できるだけ定量的に評価をした上で示すが、具体的な数字を出すのはまだ難しい。分かりやすく人に説明するために絵というか、分かりやすく説明するためのレベル表示による段階評価というの </p>
----------------------	--

都市防災まちづくり担当課長補佐	<p>をやっている。</p> <p>こちらの方で見せ方、プロセスとしての整理が必要なのが分かったので、また考えていく必要があると思う。今後の市民への説明の対応も踏まえ、考えさせていただきたいと思う。</p>
B委員	<p>定量的評価で何とか示していきたいという1つの思いであり、これから新たにまちなか居住区域を見直していく際の検討のポイントにしていきたいと思う。既成市街地の都市的土地利用を無理やりやめるとい方向にするのではなく、新たに区域を考える際の指標として用いる1つのキーにしたいとの考えで、整理したものである。</p>
都市防災まちづくり担当課長	<p>そのような思いや熱意は良いと思うので、分かりやすい見せ方の部分と、見せるものの背後にあるバックデータや考え方が確かでもっともらしいかの2つは分けて考えるべき。その考え方のフローチャートがこの資料では混在している。背景となる部分は凄く細かく知りたいし、見せるところは本当にそれで良いのかという視点で見たい。その辺りの考え方やフローチャートをきちんと示していただければ、そのフローチャートに対してここが分かる分からないの判断と、こうすれば良いのではないかという話ができると思う。P13、P14のフローチャートは、個人的な感想としては、分かるようで分からない。分かるように意見を言いたいし議論をしていきたいので、先ほど言ったような視点で、もっともらしさや正確さの部分をしっかり議論させていただきたいと思う。</p>
D委員	<p>今後の計画の策定に向けてスケジュールもあるので、事務局で確認し個別に相談させていただく。いただいたご意見のフローチャートであるが、シミュレーション自体は各機関が実施し、そこで示された浸水域の考え方等に基づいて検討を進めている。ハザードの評価については、P15のような形で進めている。</p>
D委員	<p>3点、お尋ねする。</p> <p>1つ目は、経済的被害リスクの分析の算定方法案が無いように思った。P9、P10の人的被害リスクの算定方法で、評価値がどのように定義しているかが書かれているが、経済的被害リスクの方は、前回は示されていたと思うが、同様の評価値の定義が無く、忘れてし</p>

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>まった。</p> <p>2つ目は、一連の説明を聞き、滅多に起きないけれど起きたらとてつもない被害を受ける災害と、1回の被害は少ないがよく起きうる災害について、自分の地域の中でどちらを優先すれば良いのか、という住民の方が持つ疑問に対する答えを提示しているとするれば、非常に役立つ結果だと思った。おそらく事務局でも住民の方に見せることを意識して示していると思ったのは、例えば P33から P36に渡るメッシュの表示である。こういったものはそのように受け止められるし、円グラフ等ほどのリスクが卓越しているのかを知るのに役に立つと思った。そうすると、もう1つ住民の方に示すのに適している資料として、P75の各ハザードの対策と傾向を示された表があり、これは順番が水害の外水、内水、土砂災害、地震、雪害で上から並べられていると思うが、評価は出来ていると思うので、ここを地域で卓越している（災害リスクの）順番に入れ替えれば、例えば川口地域ではこの順番で気を付ければ良いというのが一目見て分かりやすくなると思った。ただ、「浸水リスクが高い」、「リスクがある」という説明は、理解するのが非常に難しいので、高いなら何と比べて高いのかをやはりこちらで定義する必要がある。その地域の中で高いのか、他の地域と比べて高いのか、ある一定基準を超えて高いのか。その辺りはきちんと考えて書いた方が良い。</p> <p>3つ目は、その後の P78の空白エリア、リスクが低いエリアというのも非常に重要な情報だと思う。現在、自身の研究で、福祉避難施設における避難の課題を研究しており、避難確保計画における避難先の候補等を各施設が独自につくる際にも、このような情報は非常に参考になるのではないかと思う。このホワイトエリアも説明の中では強調するのも1つの手だと思った。</p> <p>まず1つ目の経済的被害リスクについては、第3回委員会で示しており、基本的に中身に変更が無かったので省略している。</p> <p>2つ目については、今後、そういった視点を踏まえ、例えば P75のものは、各地域別に見せていくことになるかと思う。そういったところでの見せ方については、次回の策定委員会でいただいた意見を踏まえ、整理した詳細のものを準備させていただきたい。</p> <p>3点目の P78のような事例については、地域でこのように分かっていると良いとは思いますが、ハザードマップを見ると空白地域がほとんどない。</p>
----------------------	---

<p>A委員</p>	<p>ハザードマップ上に、空白エリアがほとんどないとの点について、想定最大規模ではそうだが、資料で示したのはまちづくりのターゲットとしている中・低頻度という計画規模である。施設を誘致するには計画規模が良いと思うが、想定最大規模に関してはリスクがまだ残っているところが多くある。想定最大規模でも水に浸からない地域については、ハザードマップを見ると分かると思うので、それについては事務局から危機管理防災本部に情報提供し、見せ方についても整理しながら進めていきたい。</p> <p>リスク分析を市民にどう見せるか、見せた際にどう思われるかというのは少し別の問題かもしれないが、まちなか居住区域がクローズアップされて、リスクが非常に高いように見え、本当にそこに居住誘導して良いのかというのがモヤモヤするところではある。</p> <p>だが、これからの人口減少や財政難等を色々考えると、その中に集まって住んでいただきたいという考えがあるのではないかと思う。その際に、今の分析を踏まえた P81から P85というのが今後のまちづくりの方向性が示されていると思う。P81、P82はどちらかというと土木分野の、リスクの高い町をきちんと守るぞという感じで非常に良いのだが、その後を色々とも見ても、市民に対してどうしてほしいかという部分が少し欠けていて、それが何を言うかというのは後半の議論になってくるのだと思うが、その際、長岡市内の新築動向が参考になるのではないか。以前私が分析した際に、新築は年に2,000件くらい、約40年で全部が入れ替わるくらい新築に勢いがある。資料を見ると先ほど例えば浸水深70cm 以下ということなので、床70cmのところまでは配慮してほしいとか、浸水深が深いところであれば床の高さをどうしてほしいとか、市民にどうしてほしいかということに繋げるべきだと思う。海外だと浸水深を想定して、1階は使用可能だが住んではいけないというルールを決めている地区もある。要するに、浸水リスクのある1階を居住空間と分離することで、人的被害と経済的被害のいずれも抑えることができるためである。</p> <p>そのため、今回はここまでが良いが、次に建築様式をどうするかをぜひ検討してほしい。長岡市では高床式住宅を認めているので、例えば浸水深が深いところについては高床式住宅を推奨し、どんどん補助していくという施策もある。ただし、高床式住宅は高齢者の方々の外出頻度が少なくなってしまう懸念もあるので、どうす</p>
------------	---

	<p>るかも検討が必要である。</p> <p>今、高齢者の方々にたくさん売れているのは平屋建ての住宅だが、リスク分析を見てこれだけ浸かると言っておきながら、平屋の住宅をそのまま許容して良いのかということも、ぜひ議論していただきたい。後半はまちなか居住区域にどのように誘導していくかという意味で、このエリアの中にどのような住宅を入れていくかを言おうと思っていたが、ここまで細かくリスク分析されているのだとすると、このような施策展開が必要だと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>私も似たような話で補足させていただくと、P89に色々な評価指標があるが、お話を聞いたところだと外水は堤防工事の実施により、令和22年度にはこれくらい完成して（浸水深0.7m未満となるエリアの居住人口割合が）その分、増える。一方で、他は何もしないから一緒であるように見える。先ほどA先生がおっしゃったような施策と結びついたらしないと、数字だけで言えば、高齢者が亡くなることによる人口分布の変化の方が、水害対策の実施をどうするかよりも影響が大きいと思う。そうすべきではなく、例えば、それぞれのエリアの社会増がどうなっているか、新築の割合がどうなっているか等、施策と繋がって評価できるものにしていかないといけない。2つ合わせてご回答いただければと思う。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>P81からP85にかけて、想定取組一覧ということで示している。ご指摘いただいたとおり、先ほど高床式の話もあったが、実際に信濃川流域の小千谷市では、水害対策で高床式を推奨されているという事例もある。ただ、長岡市としても気候や住まい方、高齢化等を踏まえ、やる、やらないの判断があるかと思うが、関係機関との協議により、立地適正化計画の中に施策の展開として書く箇所もあるので、どこに書くかの判断を含め検討していきたい。</p> <p>P89はご指摘いただいた指標については、人口推計値を使い、それを踏まえた上で49.1%と設定している。単純に今の人口を河川堤防の整備等で49.1%としていない。今後の人口減少を踏まえ、まちなか居住区域の人口割合を高めるようにやっていきたいと考えている。最初の方にお話があったまちなか居住区域のリスクが高いように見えるという点については、市街化調整区域で浸水深が深い傾向なので、まちなか居住区域のリスクは低いとの認識でいる。リスクが出ていないのは、そのエリアで資産がないことから、空白地に</p>

都市政策課長	<p>見えているだけである。まちなか居住区域は安全性を高めていく必要があることから、評価として河川堤防整備等を踏まえて記載しているが、その他の施策についても同様に、安全性を高めるために必要なものとして、展開できる施策について整理していきたい。</p> <p>ご指摘の通り、ハード整備だけでは安全・安心なまちづくりとしては不十分である中で、都市側としてはどのようなまちづくりしていくかが課題だと思う。今回、防災指針の説明もできたので、立地適正化計画の改定の中でどのような表現で記載できるか考えていきたい。</p>
委員長	<p>他に何かご意見はあるか。また、最後にまとめて何かあればお願いしたい。</p> <p>委員会の途中ではあるが、新型コロナウイルス感染予防のため、5分間の換気・休憩を行う。15時から再開する。</p> <p>【 休憩 】</p>
委員長	<p>それでは開始時刻になったので、議事を再開したい。 議事（3）計画書修正（案）について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（議事（3）資料説明）</p>
委員長	<p>ただいまの説明に対して、ご質問等ありましたらご発言いただきたい。</p>
A委員	<p>ここが大事な部分である。まず1点伺う。P99について、「旧耐震基準で建築された建物は40年が経過し、安全性や防災面での対応が求められています。」との記載は、安全性が耐震基準であるのは分かるが、防災面については先ほどのリスク分析されたものを合わせて考えると長岡らしい計画になる。</p> <p>質問はP95である。まちなか居住区域では「まちなか居住区域定住促進事業や空き家リフォームなど移住・定住支援策の拡充等により」と書いてあるがこれは本当か。確認してほしい。色々な施策評価をする際に、理由が分析出来ていないと次の1歩に進まないが、</p>

<p>都市政策課長</p>	<p>頂いた資料だけでは居住促進事業や空き家リフォームなどの支援策が有効に機能しているように読み取れない。長岡は市外からこのエリアに入られた方々に固定資産税の減免をされているが、それで本当にまちなか居住区域の人口が増えていると私は全く思えない。他都市では立地適正化計画を使って本気で市街地の集約を考えている。</p> <p>金沢市では、市内でもまちなか居住区域に入って来られる方に、かなりの後押しをしているし、長岡にある4大学1高専は全て郊外にあるが、金沢市ではまちなかの地域活動に参加することを条件に15万円の補助を学生達に出して、まちなかに住んでもらうことを進めている。これは住民登録を必須としているのでまちなか居住人口の増加に繋がっている。あとは郊外にどんどん住宅が建つが、まちなかを選んでもらうために適切な住宅地がないため、金沢市では「まちなか住宅団地整備補助金」として、宅地を整備する事業者に補助金を出し、事業者が宅地を整備する際に空き家の除却を合わせて行うことを条件としている。埼玉県寄居町や松江市でも同じような考え方で市内での住み替えを進めていて、その際にまちなかには土地がないという概念を捨てるために空き家を1件以上含めて不動産業者、もしくは建設業者が開発許可を上手に使いながら、新しい道路網と併せて整備している。もう少し調べないといけないが、函館にいたってはまちなかに来た人には、200万円の補助金を出し、まちなかに住宅を持ってきてもらうというかなり積極的な支援をしている。</p> <p>長岡がどの程度本気なのかは、市民の皆さんが見た際に出てくるのではないかと思う。市外の人にまちなかに入ってきてくださいというのは見かけ上やっていることにはなるが、本気で集約化を図るのであればちょっと足りないように思う。足りていない理由が本計画書の中では「それによって少ない」と書いてあるが、たまたまマンションが建っているから見かけ上、少なくなっているというようにしか読めない。</p> <p>長岡市としてはまちなか居住区域に市外から転入した方に税金の減免もあり、今年度からは空き家のリフォーム補助のうち、市外からまちなか居住区域に入った方へのメニューを作る等、少しずつ取組は増やしているところであるが、それが因果関係として成り立っているかどうか証拠が足りないのではないかのご指摘だと思</p>
---------------	---

	<p>う。結果的に市街地だから人がいっぱい住むのではないかというご指摘でもあと思うが、少なくとも何もしていないということではない。</p> <p>申請時に実施しているアンケートの回答では、税控除等により効果が出ていると記憶しているのでゼロではないと思うが、ここまで強く言えるかは少し考えさせていただきたい。ただ、ご指摘のように他市町村は色々とおられるが、急激に新たな展開というのも難しい。どちらかという今まで進めてきたことを継続的に進めていこうと思っている。</p>
都市政策担当係長	<p>本気でやるのであれば今長岡がやっている市外からの転入だけをターゲットにするのではなく、市内の居住区域外の方に対してもきちんとアクションを起こすべきというご指摘についてはご指摘のとおりである。市としても考えていかなければならないという認識の中で、来年度、新規事業ができるか、対象を拡張できるかについて関係課と具体的な検討を進めているところであり、先生からご提示があった自治体の情報を集めながら取り組んでいきたい。</p>
A委員	<p>あるところの小学校では教室が足りずプレハブで校舎を建てる、あるところはどんどん子供が減って辞めてしまうという話があり、そこでは億というお金が動くが、行政が全くノータッチであれば市民は新しいところに行ってしまう。トータルで考えていただいたほうが良い。</p> <p>もう1点。P94、やり方として正しいかどうか確認をしたい。現行計画の中間評価では目標値を変えていないが、実績値の扱いをどうしているのか。計画策定時の目標値があり、実績値を評価に使うなら良いが、そうではなく、計画書中の参考値がそのまま目標値に変わっているように見えた。評価をする時に参考値をそのまま変えてしまうと施策の評価が出来なくなってしまう。元々の実績値と目標値が、今回新たに平成27年国勢調査結果を入れたとすると、平成22年からどう変化し、目標値がどう変わったのか分析があったほうが良い。本編でいうとP8-2の下の方について、現行計画のP97の参考値が、新しい部分も入れられて変わってはいるものの、策定時の現状から参考値となった部分を、表現はお任せするが、目指すべきところに向かい、中間評価までに実施してきたことがどうなったかという評価も必要だと思う。</p>

都市政策担当係長	<p>おっしゃったことは私達も悩んでおり、今日は資料をお持ちして いなく申し訳ないが、第2回の策定委員会でお示した表は先生から ご指摘のあった平成22年度国勢調査ベースでの予測値であり、そ れに対して実態を加えたものである。その資料も参考にし、今まで やってきたことがどのように数値として表れたのか、より分かりや すく可視化出来るように考えたい。</p>
A委員	<p>その際に、長岡は目標指標が人口密度の実数と割合の2つある が、これはどちらもイーブンと考えるのか、どちらかを優先するの か考えてもらえると良い。人口密度の低下がより一層進んでいく中 で、割合のほうは割合でいくだろうが、人口密度の低下は想定以上 に進んでいくと厳しくなってくる。誘導施策にもよるが、実数がど んどん小さくなると人口密度で考えると厳しい。本来のコンパクト シティでいくと密度の方が大事であるが、どう評価するのか是非考 えてもらいたい。</p>
委員長	<p>長岡市は、市外からの人を対象とした施策が色々ある。市民が増 えて、税収が増えるからであり、十分理解できる。 立地適正化計画は住みづらい場所から移っていただくことがそ もその目的なので、その目的に合った形の施策も必要だと思う。</p>
C委員	<p>P95、P96に土地利用の現状の問題点、課題点の記載があり、中心 市街地では低未利用地が増加傾向にあり、空き家が増えているとい う現状が書かれている。まさにこのとおりである。 また、中心市街地での高齢化の傾向も含めて、計画実現に向けた 施策の拡充について、P96右側の改定計画の記載の居住者への支援 や低未利用地への支援等とも絡むが、例えば郊外の離れた一軒家に 住む高齢者がまちなかの方に住み替えてもらうための支援策は、防 災上から考えても合理的な施策だと思う。 支援策等を今後関係部局とも連携しながら、施策を立案し、この 計画に書き込むと考えて良いか。</p>
都市政策課長	<p>この計画として書き込むのは、読み上げていただいた居住者等へ の支援の部分である。取組は各部局が具体的に進めようという施策 が出てきたら書いていく形になる。ご指摘のように、安全・安心を 考えた時に、高齢者を孤立させないように、まちなかへ住み替えて</p>

	<p>もらう施策につながれば、計画に書いていく。</p> <p>施策の目標として、安全な住環境とあるが、各部局との相談を踏まえ、実際に取組を行うという方針が出てくれば書き込む。</p>
C委員	<p>まちづくりを実現しようとする方向性があれば、具体的な施策を掲げないと何も実現しない。役割分担として個別に行うとしても、立地適正化計画によってまちなかに居住者を増やそうということが最終目標だと思う。どのような人に住んでもらい、そのためにはどのような施策が必要なのか位置付けないとならない。学生ならこの施策、高齢者ならこの施策、外国人ならこの施策など、計画で方向性を示し、具体的な施策は各担当部局が調整するとしても、リーダーシップをとるのはこの計画であると覚悟を決めないと、長岡のまちづくりが良い方向に進まないと思う。</p>
都市政策課長	<p>中心市街地については、ご指摘のとおり、高齢化率は郊外よりも高いという数値が具体的にある。それは居住性や立地面等から、マンションの方が住みやすいからであると思われる。</p> <p>実態として捉えているが、施策として、できるだけ各部局に流せるかどうかというご指摘だと思うので、書き方も含めて考えさせていただきます。</p>
委員長	<p>今日はE先生がお休みだが、P97の計画実現に向けた施策の拡充、また都市計画区域外について、先生は非常にお得意なのでご意見を伺えればと思う。</p> <p>全体を通してご意見・ご質問はあるか。</p>
Aオブザーバー	<p>意見に近いが、防災指針を作る意味のところで色々議論されていたのを見て私なりに少し思ったことだが、ハードを作るための対策の方針にするのは当然その通りだと思う。一方でソフトの対策というのをしっかり議論できるよう、民間のアイデアも含めて具体的に議論するための方針を、市民にも明確に示していくということが防災指針では一番大きい。今後の議論の中で意識しておいて欲しいのは地域ごとの対応方を整理する際、ソフトを想定する上では担い手とか財政とかは常に制約が当然ある。そこを無視しないというのが当然あると思っている。。</p> <p>先ほどのメッシュ等で表示されている中でも、過疎地域や山間部</p>

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>のような支援の手が伸びづらいようなところで、大きな被害に合う可能性があるという表示もあるので、そういう時には隣接する地域の支援を、可能であれば隣接する市と方針を共有し、実際に災害が発生した時に市境関係なく協力してやらなければいけないと思うので、その辺を意識共有できるような方針を示してほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>P74にも示していたが、第3回委員会でも示したように立地適正化計画だけでなく地域防災計画等、各計画のソフト的な観点からも整理している。お話しいただいた他の地域、被災していない地域との連携というのは防災計画の典型であると思う。そういったところも、私共の計画と他計画を共有する、計画と連携するということを意識しながらやっていきたい。</p>
<p>都市政策課長補佐</p>	<p>他に全体を通して何かあるか。</p> <p>それでは総括ということで、まずは事務局の計算の努力を労いたい。データ量が膨大で消化不良を起こすこともあるので、目的に立ち返りながら進めることで非常に良いものになる。特に、長岡は信濃川の近くに位置していることから、災害リスクの低いところが多いので非常に難しい計画になると思うが、やっていただければと思う。</p> <p>本日予定していた議事はこれで以上である。</p>
<p>(委員長の署名欄)</p>	<p>委員長ありがとうございました。委員の皆様、オブザーバーの皆様、本日は長時間にわたりご議論ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録については、委員長から確認の署名を頂き、委員の皆様に郵送をしたい。</p> <p>次回の委員会については、皆様の予定をお聞きした上で9月の最終週、もしくは10月の第1週あたりの開催を予定しているので、決まり次第改めてご連絡をさせていただく。</p> <p>以上をもって、第4回長岡市立地適正化計画策定委員会を閉会する。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p> <p style="text-align: center;">佐野 可伸志</p>